

# 今月の 我がマチの 一番星☆



追分陽光苑クリスマス会での演奏会  
(昨年12月22日撮影)



大野 順一さん

ハーモニカ演奏で元気を与えたい

「歌手の北島三郎(本名大野稜<sup>みのる</sup>)と親戚になるんですよ」と話す大野順一さん(早来北町)。大野さんは早来小学校から外语スクール(現東京外国語大学)まで吹奏楽部で音楽と親しんできました。

日ごろから人のために役立つことをしたいと思っていたところ、むかわ町の老人ホームに中学生が慰問し、入所の方が喜ぶ姿をみて感激。平成18年に地元の施設でハーモニカ演奏を行いました。

「童謡や流行歌など500曲以上を奏でることができませんが、30分の持ち時間では25曲ぐらいが普通ですね」といいます。聴衆の年齢や好みを考えながら選曲し、時代背景を頭に描きながら誰でも口ずさめるように配慮しているとのこと。

## 最良の保存と走るSLの実現に向けて



阿部 好次さん

「焼失したD51-241号は追分機関区から出たことがなく、また昭和天皇・皇后両陛下を乗せた御召列車をけん引したんですよ」と懐かしむ阿部好次さん(追分若草)は安平町SL保存協力会3代目の会長。JR追分駅前のロータリー化に伴いSLの動輪を設

置することを町に提案しました。

「鉄道資料館は5月から10月まで月2回の一般公開のほか臨時に開けることがあります。臨時開館も多いですね」と苦笑い。東京から来た人もいますが、できるだけ断らないようにしたり、冬に申込みを受けたときは除雪をして来館者を待つこともあるとのこと。

研究熱心なSLマニアには驚くと言いき、「細かい質問にも答えられるように常に勉強しています。小さな子どもは機関車に上がろうとするので目が離せません。札幌の子供会で200名ほどが来たときは緊張の連続で、会員の皆さんも大変でした。」と気を遣っていました。

黒煙を出して走る雄姿に憧れて機関士となった仲間たちはSLの話題になるとさまざまなアイデアが生まれてきます。みんなの夢は現在車庫の中で静かに眠っているD51-320号車を走らせること。コン



元機関士の服を着て説明する阿部さん(左端) 平成19年9月撮影

プレッサーを使って走行できないかなど、SL復活への思いをめぐらせています。「道内各地でSLが展示されていますが、蒸気機関車と苦楽を共にした我々には力強く走っている姿が忘れられません」と回顧します。SLを愛する人たちのために、これからも最良の保管状態を守っていきたくないと決意を新たにしていました。

昭和の歌謡曲を聞くとき昔を思い出して涙を流す高齢者の方や、ハーモニカのメロディーに合わせ小声で歌い出す声が聞こえ大野さんも涙ぐむときがあります。

「良い音色を聞かせるにはよい道具から」と一流のハーモニカを求めて楽器店に向かう。昭和の歌謡曲を聞くとき昔を思い出して涙を流す高齢者の方や、ハーモニカのメロディーに合わせ小声で歌い出す声が聞こえ大野さんも涙ぐむときがあります。

「私自身が喜寿を迎え演奏を聞く立場になりましたが、体力が続く限り入居されていく方々のための活動を行っていきたくいですね。招待を受けたいいつでも駆けつけるように練習を怠りません。高齢者の皆さんに元気を与えることが一番の楽しみです」と温かいまなざしと優しい笑顔で抱負を語ってくれました。